

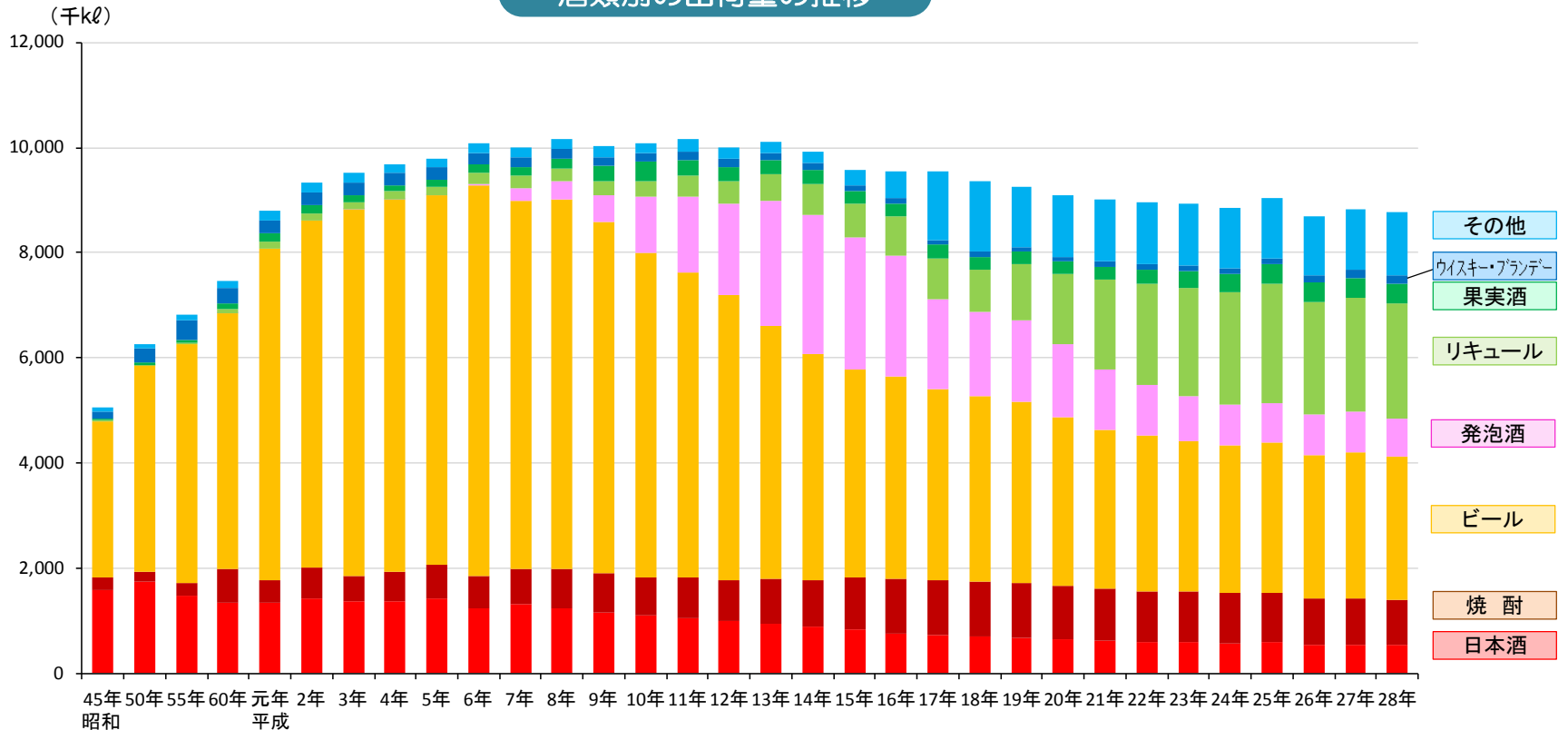
日本酒をめぐる状況

平成30年10月
農林水産省 政策統括官

1 酒類別の出荷量の推移

- アルコール飲料全体の出荷量は、消費者志向の変化等により、酒類間での移動はあるが、全体ではやや減少傾向で推移。
- 近年では、日本酒、ビールなどが減少する一方で、チューハイなどのリキュール、果実酒（ワイン）、ウイスキーなどは増加。

酒類別の出荷量の推移



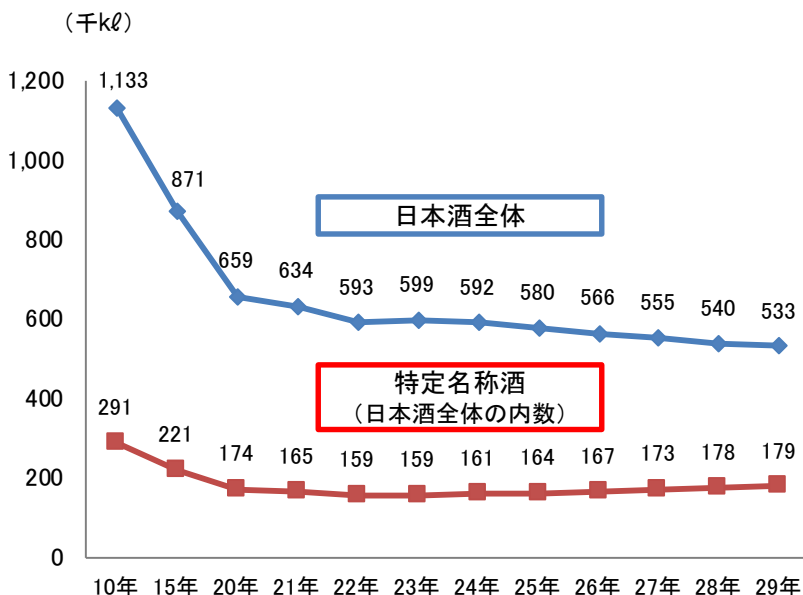
資料：「酒のしおり」（国税庁）

注：焼酎は連続式蒸留焼酎及び単式蒸留焼酎の合計、果実酒には甘味果実酒を含む、その他は合成清酒、みりん、スピリッツ、その他醸造酒等の合計。

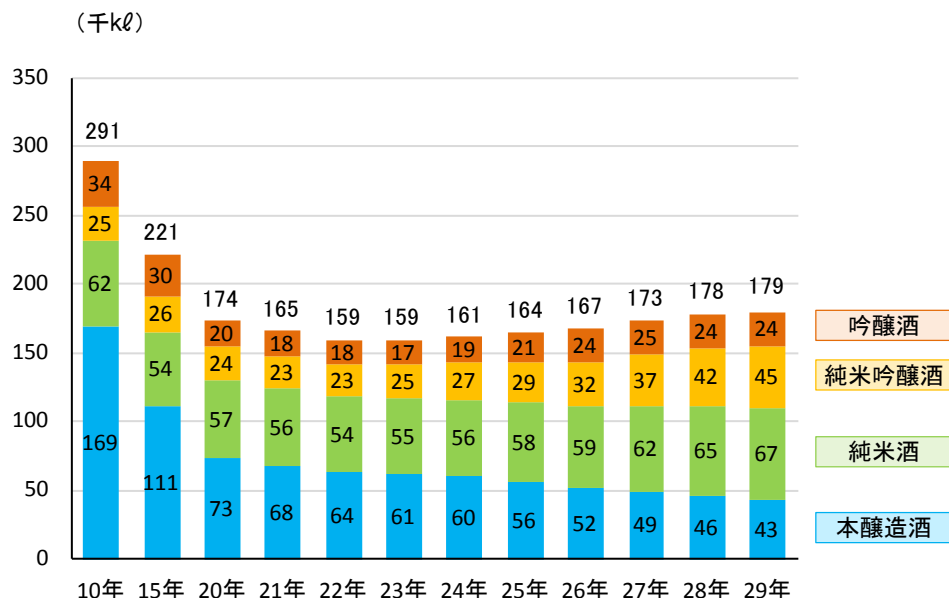
2 日本酒の出荷状況

- 日本酒の国内出荷量は、ピーク時（昭和48年）には170万klを超えていたが、他のアルコール飲料との競合などにより、近年は50万kl台前半の水準まで減少。
- 一方、日本酒全体の国内出荷量が減少傾向で推移する中で、消費者の志向が量から質へと変化してきており、特定名称酒（吟醸酒、純米酒等）の出荷量は増加傾向で推移。

日本酒の国内出荷量の推移



特定名称酒の種類別出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年度は暦年。

注1：29年は概数。

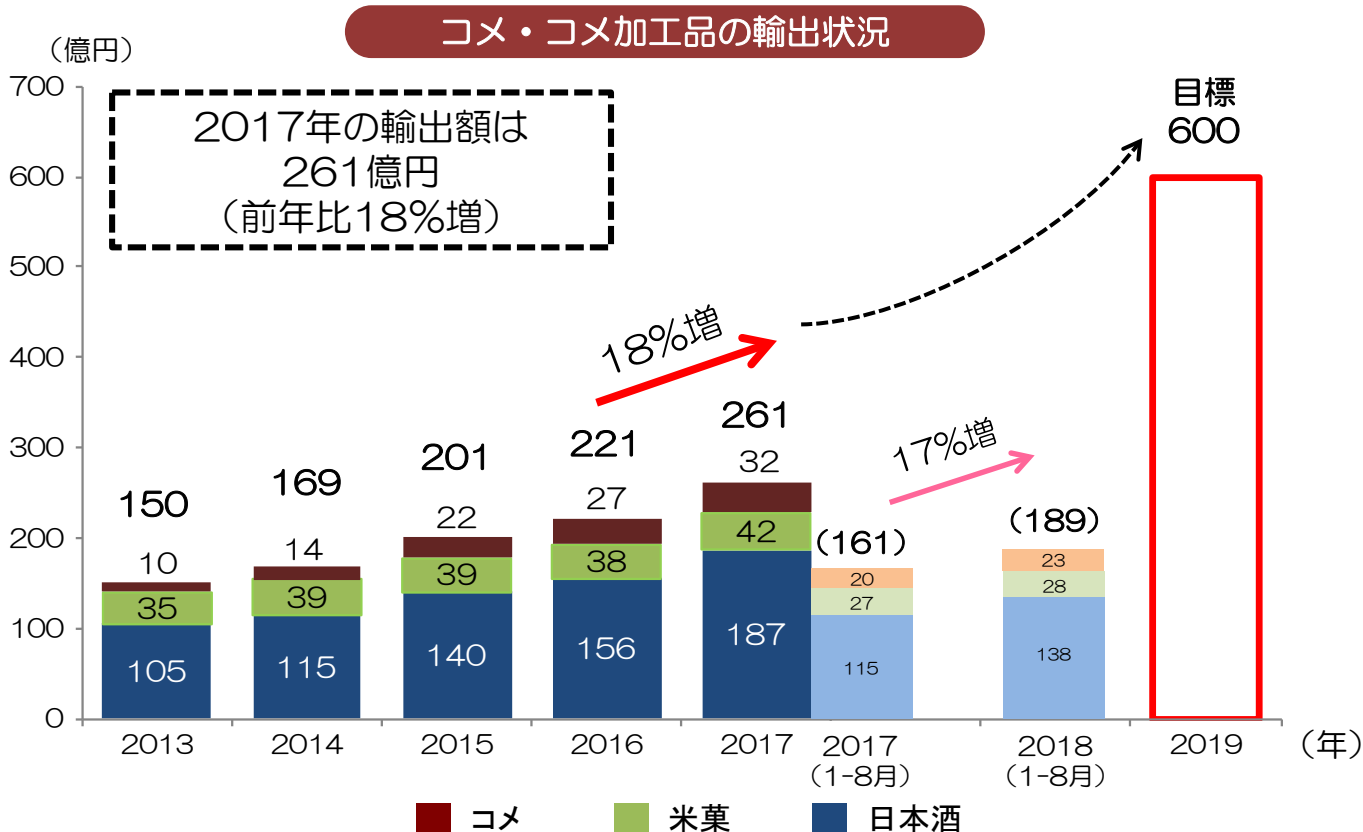
注2：清酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（原料、精米歩留）により、吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注：清酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（使用原料、精米歩合など）により、吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

3 コメ・コメ加工品の輸出戦略

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月農林水産省決定）において、日本酒を含むコメ・コメ加工品の輸出額を2020年（平成32年）までに600億円とする目標を決定。
- その後、「未来への投資を実現する経済対策」（平成28年8月閣議決定）において、輸出額目標を平成31年に1年前倒しすることとされ、オールジャパンで輸出拡大を推進。
- 更に、農林水産省では、「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」（平成29年9月公表）において、平成31年に輸出数量の目標を10万トンと設定。
- 2017年（平成29年）の輸出額は261億円（前年比18%増）。

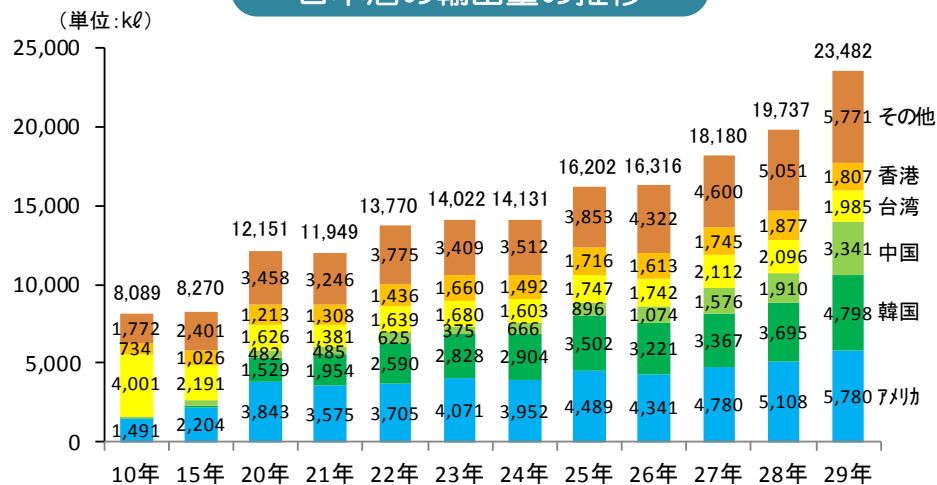


資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）
注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

4 日本酒の輸出の状況

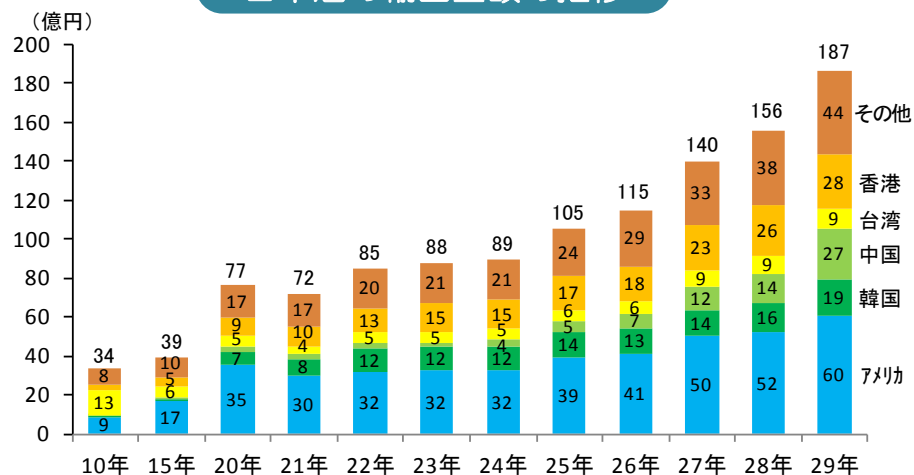
- 日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出量は、日本食ブーム等を背景に近年増加傾向にあり、平成29年の輸出数量は23,482kℓと、この10年で倍増。また、日本酒の全出荷量のうち輸出量が占める割合は4.2%となっている。
- 日本酒の輸出金額については、平成25年に初めて100億円を突破して、平成29年には187億円となり、この10年で約3倍の伸び率となっている。
- 平成29年における日本酒の輸出先国は、67ヶ国。全体数量及び金額のうち、アメリカ、韓国、台湾、中国、香港の5ヶ国・地域で約8割を占めている。
- 平均輸出単価は、1ℓ当たり795円となっている。国別では、1ℓ当たり香港1,549円、アメリカ1,045円と平均を上回る水準であるのに対し、台湾、韓国は平均を下回る水準。

日本酒の輸出量の推移



資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

日本酒の輸出金額の推移



資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

日本酒の全出荷量のうち輸出量が占める割合

年	10年	15年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
割合	0.7%	0.9%	1.8%	1.9%	2.3%	2.3%	2.3%	2.7%	2.8%	3.2%	3.5%	4.2%

注：年は暦年。

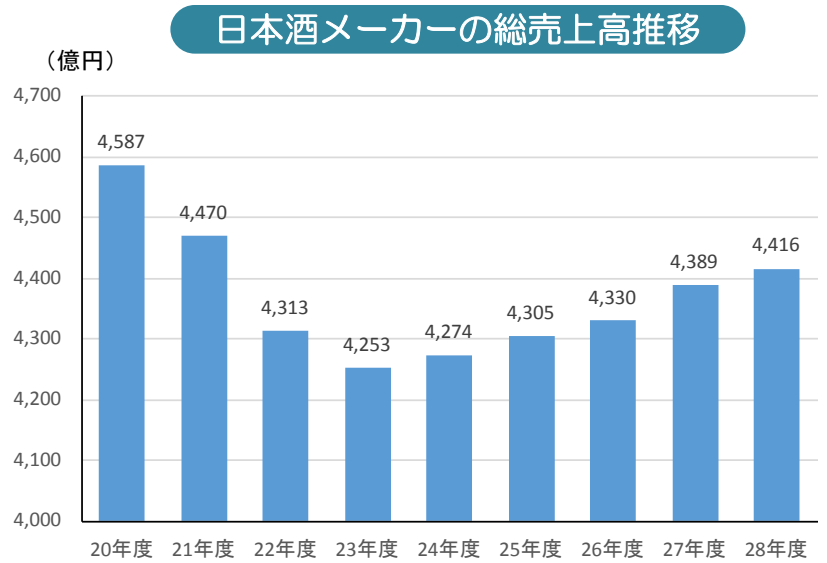
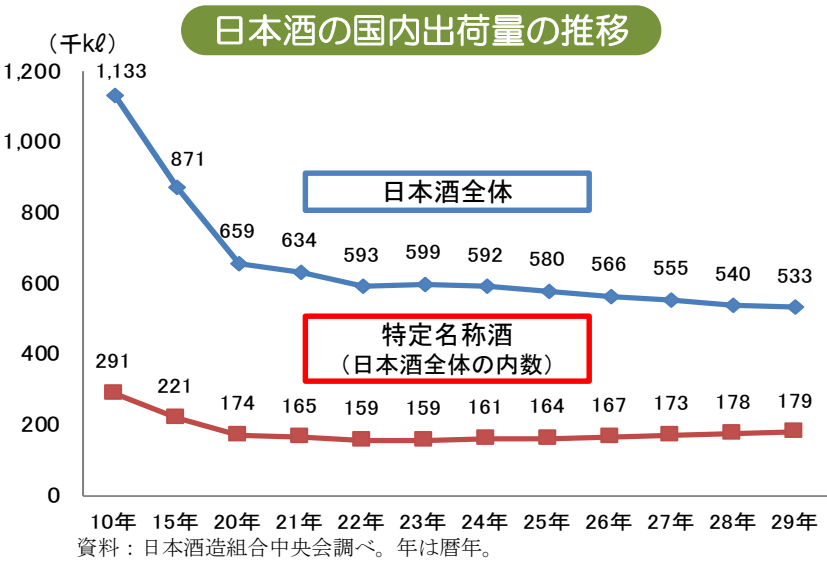
輸出先国別平均輸出単価

	平均	香港	アメリカ	中国	台湾	韓国
29年	795	1,549	1,045	796	478	389

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

5 日本酒原料米の使用状況

- 日本酒の原料米は、一般的に流通している米のほか、酒造りのために作られた特別な米、「酒造好適米」（山田錦、五百万石など）が使用されており、酒造好適米については、契約栽培を中心に取引されている。
- 平成28年産における日本酒原料米の使用量は約24万トン。近年、日本酒の出荷量は減少傾向であるものの、製品当たりの米の使用量が多い特定名称酒が増加傾向にあるため、日本酒原料米の使用量は堅調に推移。
- 日本酒メーカーの総売上高は、国内出荷量の減少とともに減少していたが、近年の輸出や特定名称酒の国内出荷の増加傾向に伴って、平成24年度以降増加傾向にある。



日本酒原料米の使用状況 (単位：千トン)

	10年産	15年産	20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産
日本酒原料米	405	315	261	246	232	238	241	243	248	251	241
酒造好適米									(4)	(7)	(7)
主食用米	165	92	60	54	43	50	57	34	27	30	22
加工用米	86	89	74	72	77	71	79	95	105	94	93
その他	55	59	50	49	47	52	37	38	26	28	29

資料：日本酒造組合中央会による推計値。
注：酒造好適米の（ ）書きは生産数量目標の枠外で生産された数量で内数。

6 酒造好適米の生産状況

- 平成29年産酒造好適米の生産量は約10万トンで、そのうち、兵庫、新潟、長野、岡山、秋田の5県で約6割を占めている。
- 酒造好適米の中でも、特に「山田錦」、「五百万石」は、全国の酒造メーカーからのニーズが多く、この2銘柄だけで酒造好適米全生産量の約6割を占めている。

酒造好適米の産地別生産量の推移

(単位:トン)

	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	シェア
全国計	75,813	90,185	108,797	106,618	100,170	100%
兵庫	22,109	26,199	30,484	28,217	26,645	27%
新潟	11,878	13,167	15,943	15,302	12,313	12%
長野	5,409	7,144	6,689	6,497	6,294	6%
岡山	3,158	4,562	5,930	5,690	6,283	6%
秋田	3,371	4,029	4,957	5,112	4,821	5%
その他	29,888	35,084	44,794	45,800	43,814	44%

資料:「農産物検査結果」(農林水産省)

注:29年産は、平成30年3月31日現在の速報値。28年産の平成29年3月31日時点の速報値は確定値に対して97%の数値。

酒造好適米の銘柄別生産量の推移

(単位:トン)

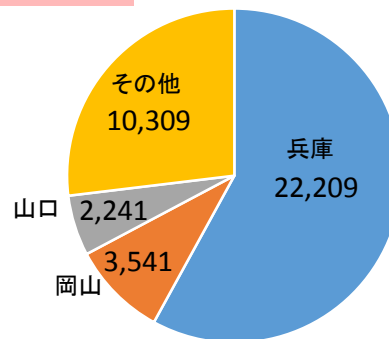
	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	シェア
全国計	75,813	90,185	108,797	106,618	100,170	100%
山田錦	23,081	29,812	39,528	37,257	38,300	38%
五百万石	20,602	22,596	27,078	26,030	20,227	20%
美山錦	6,426	7,786	7,838	7,513	7,018	7%
雄町	1,700	2,312	2,886	2,481	2,873	3%
その他	24,004	27,679	31,467	33,337	31,752	32%

資料:「農産物検査結果」(農林水産省)

注:29年産は、平成30年3月31日現在の速報値。28年産の平成29年3月31日時点の速報値は確定値に対して97%の数値。

29年産酒造好適米の主要銘柄の生産状況

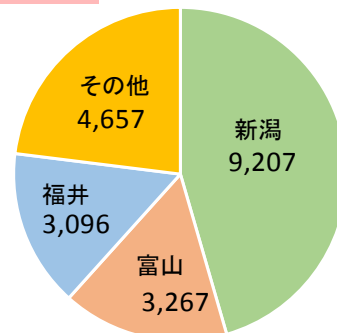
【山田錦】



(単位:トン)

	29年産	シェア
兵庫	22,209	58%
岡山	3,541	9%
山口	2,241	6%
その他	10,309	27%

【五百万石】



(単位:トン)

	29年産	シェア
新潟	9,207	46%
富山	3,267	16%
福井	3,096	15%
その他	4,657	23%

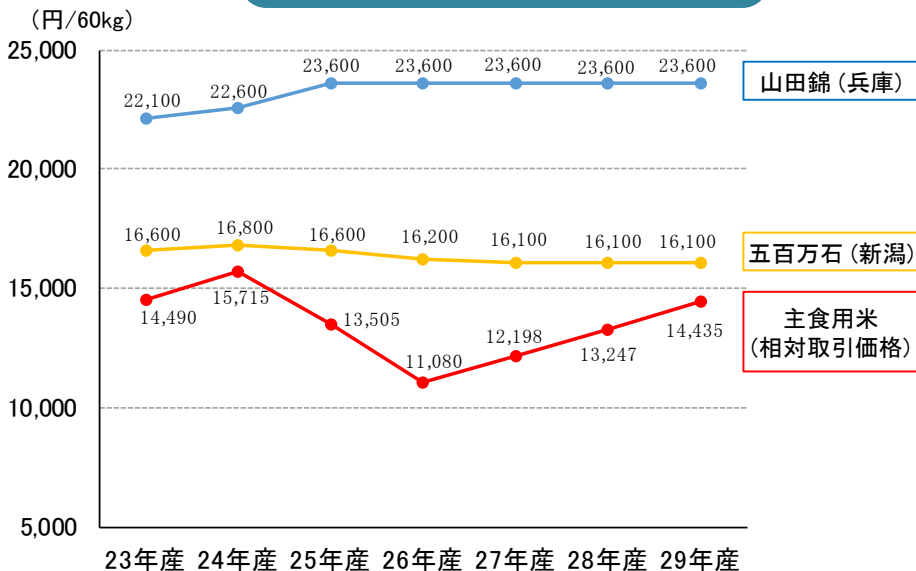
資料:「農産物検査結果」(農林水産省)

注:平成30年3月31日現在の速報値。28年産の平成29年3月31日時点の速報値は確定値に対して97%の数値。

7 酒造好適米の需給・価格状況

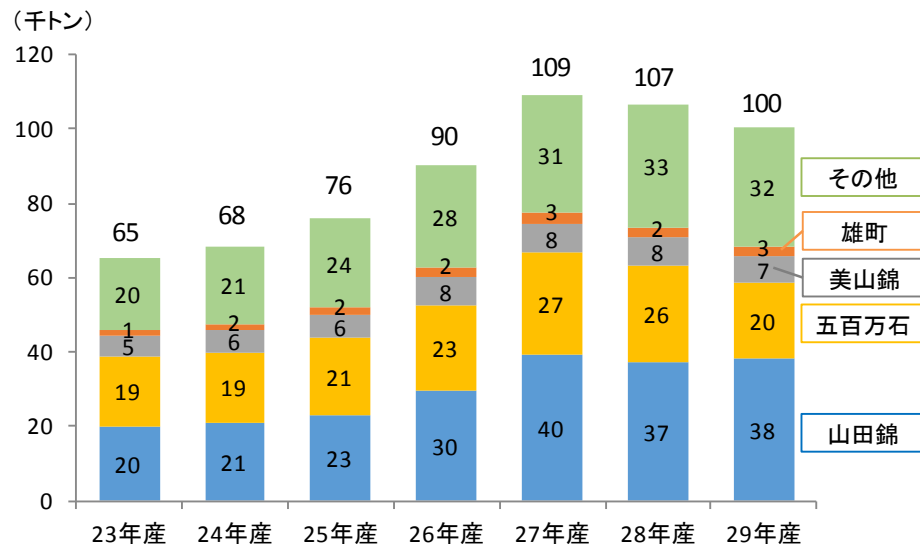
- 酒造好適米は、堅調な需要がある一方で、生産面においては主食用品種に比べて栽培が難しく、収量が低いこと等から、日本酒原料用として販売される酒造好適米の取引価格は主食用米に比べて高値で取引される傾向にある。
- しかしながら、平成27年産においては、平成26年産主食用米（うるち米）の取引価格が大幅に低下したこと等により、酒造好適米の作付けが急増したことや、作柄が良好であったこと等から供給量が増加し、産地品種銘柄によっては安値で取引されたケースもあるとみられる。
- このため、酒造好適米の需要・価格の安定のためには、的確な需要情報等の共有、需要に応じた生産が必要。

原料米の販売価格の推移



注1: 酒造好適米(日本酒造組合中央会からの聞き取り)は、1等米の販売
 注2: 主食用米(相対取引価格)は、出回りから翌年10月(29年産は30年8月)までの1等米の通年平均価格であり、包装代、運賃を含み、消費税相当額を含まない。

酒造好適米の生産状況



資料: 「農産物検査結果」(農林水産省)
 注: 29年産は30年3月31日現在の速報値。28年産の平成29年3月31日時点の速報値は確定値に対して97%の数値。

8 酒造好適米の需要に応じた生産について

- 酒造好適米の需要に応じた生産に向けて、生産及び実需の関係者による「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を開催し、平成28年6月に関係者が取り組むべき3つの方策として、①複数年契約の拡大に向けた対応、②作柄変動等に対応する仕組みの構築、③需要情報の提供体制の構築についてとりまとめた。
- また、毎年、「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を開催するとともに、需要に応じた生産を行うための指標として、平成28年度から全酒造メーカーを対象とした酒造好適米の需要量調査を実施し、調査結果等を公表しているところ。
- 酒造好適米の需要量については、平成30年度の需要量調査により、平成30年産及び平成31年産は92～94千トンの需要量が見込まれ、ほぼ同水準で推移。
- 平成31年産については、平成29年産と比べて▲8%程度の生産とすれば、平成31年産の全体需給は均衡すると考えられる。

酒造好適米の需要量調査の実施状況

	平成29年度	平成30年度
調査期間	平成29年7月	平成30年7月
調査対象メーカー数	1,442社	1,461社
回答酒造メーカー数	811社	716社
回答率(数量ベース)	83～85%	82～83%

酒造好適米の全体需給状況見通し(推計)

